

学校法人玉手山学園
 関西福祉科学大学・関西女子短期大学 学園2号館

大阪府柏原市

設計・監理／服部建築事務所
 施工／浅沼組



上／東側外観
 左下／低層部ファサードとコリドールを見る 右下／北東側より俯瞰



設計主旨

— For the students 真に必要な施設を目指して
 計画建物である学園2号館は、同一敷地内の
 関西福祉科学大学および、関西女子短期大
 学の共用施設として計画された。正門、正
 面玄関の目前が建設地であり、新しく学園
 キャンパスのシンボルとなる建物である。

基本構想時から、学生、教職員によるワー
 キングチームが編成され、利用者が本当に
 必要としている施設は何か、議論を重ねられ
 た。学生サービスの中心となる事務セン
 ター、自発的な学修を誘発するラーニング・
 コモンズをメインとした学修機能の強化が、
 最重要課題として計画が進められ、「For
 the Students」をコンセプトとし、真に必要
 で、喜ばれ、使われ、勉強時間が自然と増え、
 WAKU-WAKUする施設となるよう様々なア
 イデアが盛り込まれた。

— 自然と足を運びたくなる施設

計画建物は正門の正面に位置し、自然と建
 物へ導かれる動線を意識してメインエントラ
 ンスを配置することで、学生、生徒のみでは
 なく、学外からの来客も利用しやすい動線と
 している。アイレベルに近い低層部は開口を
 大きく確保することにより内部の人の動きが
 垣間見ることができ、学生たちの出会いを誘
 発する計画としている。

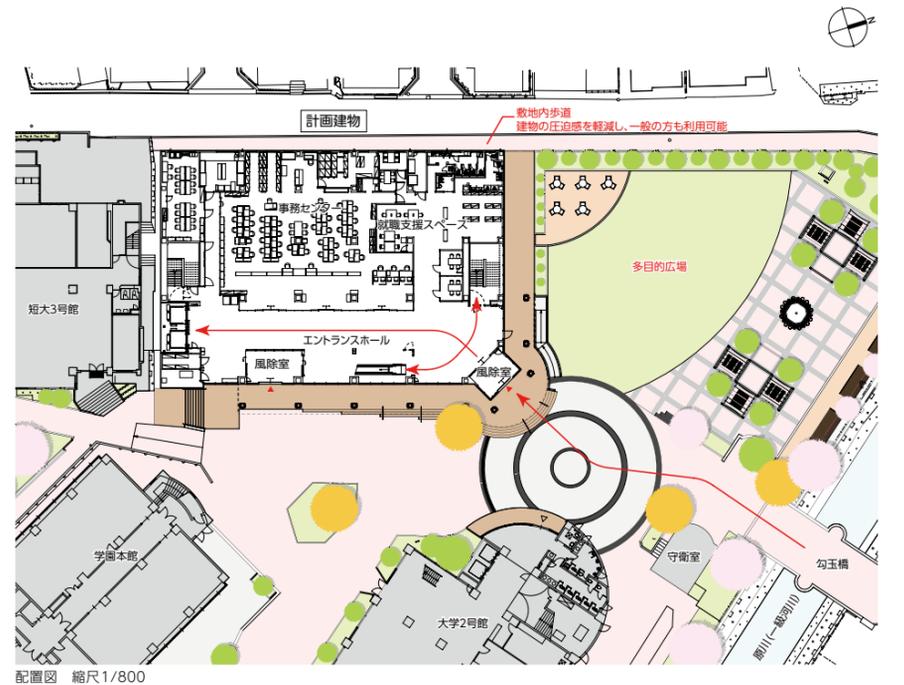
— 女性的で温かく優しさを感じる外観

学園の新しい顔となる本計画は、既存キャン
 パスにはない、他の大学にもないようなシン
 ボリックな計画であることが求められた。学
 園のワーキングチームのみならず、学生にア
 ンケートをとるなど学内全体から意見が集約
 された。医療福祉系、教育保育系の学科が
 多く設置されていることから、外観はあえて
 前衛的で奇抜なデザインではなく、女性的
 な温かく優しさの感じられるデザインとし、
 アースカラーの外壁や屋根、コリドールの設
 置、格子窓、カーテンなど、おとぎの国の一
 ような印象を持つデザインとした。

また、建物西側は道路斜線、日影の規制に
 よりセットバックした形状となっているが、隣
 接して低層の住宅があり、住宅への圧迫感
 を与えないように、セットバック距離を大き
 く確保して境界側には塀を設けず、敷地内歩
 道を整備して一般にも開放することで良好な
 景観、環境に寄与する計画としている。
 メインのエントランスを入ると、動線の要と
 なるエスカレーター、エレベーター、階段が
 すべて見通せる配置とし、ストレスなく目的
 の場所に行けるよう配慮されている。



エントランスホール ラーニング・コモンズへ続くエスカレーター、上階講義室へはエスカレーター、右手に事務センターとストレスなく必要
 な場所にたどり着ける



配置図 縮尺1/800



上/2階コラボレーションエリア
下/2階コラボレーションエリアのcommonsカフェ

— 自発的学修の中核となるラーニング・commons
ラーニング・commonsが2、3階に配置されているが、エントランスホールに設置のエスカレーターによりストレスなくアクセスできる。ラーニング・commonsは、「知の共有」のコラボレーションエリア、「知の伝達」のプレゼンテーションエリア、「知の発見」のパーソナルスタディエリアの3つのエリアから構成され、各々特徴を持ったアイテムが配置されている。国家資格取得のための自習をする学生も多く、ラーニング・commonsは早朝、夜間の利用も想定され、キャンパス内の学生の拠点となることから、カフェの併設、ゆっ

たりとしたベンチシート、広い個別学修デスクの設置など長時間の滞在時にもストレスなく過ごせる空間となっている。内装は木を基調としたナチュラルなイメージの空間とし、特にコラボレーションエリアについてはカフェをイメージした空間となっている。

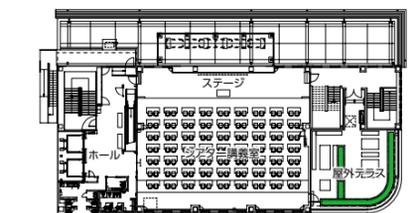
(南 博之/服部建築事務所)



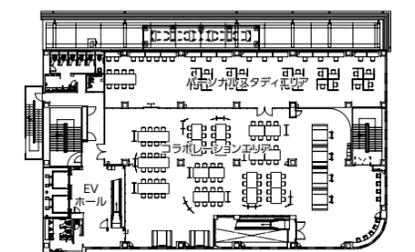
●氏名●……●ふりがな●
1968年○●○生まれ。1990年○●
○大学工学部建築学科卒業、同年○
●○入社。現在、同社○●○長



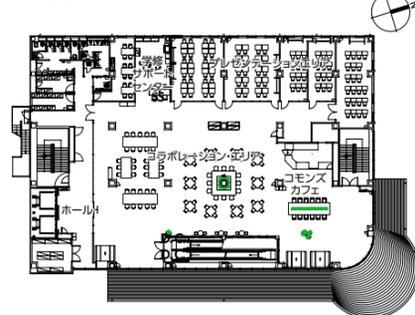
上/3階コラボレーションエリア
中/上/3階コラボレーションエリア
下/2階プレゼンテーションルーム



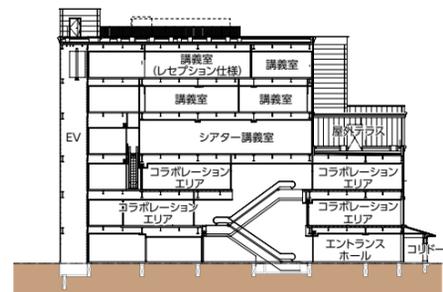
4階平面図



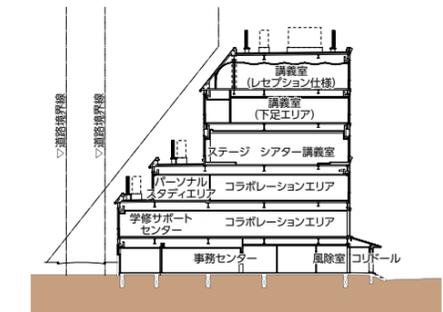
3階平面図



2階平面図 縮尺1/800



南北断面図



東西断面図 縮尺1/800

施工計画

まず最初に、唯一の搬入経路である「勾玉橋」の強度計算を行い、計画を行った。施工条件としては、北側に短大1号館、南側に短大3号館が近接して建ち、西側は4.5m道路。搬入・施工ができるのは東面のみとなり、かつ学園関係者と動線が同じとなるため、搬入車両の厳正な時間規制管理を行った。基礎部においては敷地が南北で2m以上の高低差があり、1階部分が半地下形状となるため、山留め、止水処理を考慮して施工を進めた。鉄骨建方においては、限られた工

事エリアを考慮して工区を10分割し、建物内に仮設通路を円形に配置して、移動式クレーン2基による建逃げを行った。非常にタイトな工程であったが、学園関係者、設計者、近隣の方々に多大なる協力をいただき、2期工事を終えることができた。

(福原健治/浅沼組)



●氏名●……●ふりがな●
1968年○●○生まれ。1990年○●
○大学工学部建築学科卒業、同年○
●○入社。現在、同社○●○長



鉄骨建方時の状況



学校法人玉手山学園 関西福祉科学大学・関西女子短期大学 学園2号館 データ

所在地 大阪府柏原市旭ヶ丘3-11-1

主要用途 学校(大学)

建築主 学校法人玉手山学園

設計・監理 服部建築事務所
担当/建築：南 博之*、下林優之介*、森田佳代*
設備：久保恭人、竹本亮太* (*設計監理共)

構造 トクオ 担当/諏訪孝博、藤田直久

施工 浅沼組
担当/福原健治、太田善文、塚本敦也

設計期間 2016年2月~2017年9月(基本構想)
2017年10月~2018年9月(基本設計)
2018年10月~2018年12月(実施設計)

工事期間 2019年1月~2020年4月
~2021年3月末竣工(解体、一部増築、広場整備)

【建築概要】

敷地面積 93,839.88㎡
建築面積 1,218.12㎡(新棟部分)
延床面積 4,931.23㎡(新棟部分)
建ぺい率 41.74%(許容60%)
容積率 177.41%(許容200%)
構造規模 S造 地上6階、塔屋1階

【学校施設】

施設構成

ラーニング・commons：コラボレーションエリア、プレゼンテーションエリア(プレゼンテーションルーム×5室)、パーソナルスタディエリア
講義室：5室(内シアター講義室×1室、レセプション対応講義室×1室、多目的講義・演習室×1室、普通講義室×1室)

利用想定人数 1,000人/日

教職席数 38席(1階事務センター)

【主な外部仕上げ】

屋根 カラーガルバリウム鋼板t.0.35一文字葺き(多色葺き)全面接着工法 陸屋根：アスファルト断熱保護防水
外壁 押出成形セメント板t50アクリル樹脂系多色意匠裝飾仕上塗材(一部石吹吹付)
建具 アルミサッシ、アルミカーテンウォール、Low-E複層ガラス
外構 せつ器質タイル(二丁掛、ボーダー)デザイン張、インターロッキングブロックt80
屋外テラス床 鋼製根太組の上、人工木材ウッドデッキ
屋外テラスステップ、椅子 黒御影t30レザー仕上
【主な内部仕上げ】
エントランスホール 床/150x900木目調タイルデザ

イン張 壁/300x600セラミックタイル、弾性接着剤張 天井/石膏ボード+無機質壁紙貼、岩綿吸音板
ラーニング・commons(2階コラボレーションエリア) 床/AOフロア+置敷きビニル床タイルt5.0 壁/無機質壁紙貼 天井/石膏ボード+無機質壁紙貼、岩綿吸音板
ラーニング・commons(2階プレゼンテーションエリア、3階コラボレーションエリア、パーソナルスタディエリア) 床/AOフロア+タイルカーペットt6.5敷 壁/無機質壁紙貼、ホワイトボード用鋼板 天井/石膏ボード+無機質壁紙貼、岩綿吸音板
シアター講義室 床/タイルカーペットt6.5敷 壁/木目不燃化粧板t6、多色張 天井/石膏ボード+無機質壁紙貼、岩綿吸音板
多目的講義・演習室 床/木目調長尺ビニル床シート t2.5(一般) 同上+アンダーレイシート(保育実習室) 壁/無機質壁紙貼 天井/石膏ボード+無機質壁紙貼、岩綿吸音板

撮影/近代建築社(清水向山)



4階シアター講義室



ラーニング・commonsからアクセスできる屋外テラス

協力会社
(当社記入欄)